

農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とつとり農業戦略課 研究・普及推進室 まとめ  
令和3年2月15日 現在

作物名	生育状況等	今後の見通しと対策	
麦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全般的に生育は順調だが、下葉の黄化が見られる。大麦「しゅんれい」の幼穂長は10月下旬播種で5mm、11月上旬播種で3mm程度で、順次穂肥散布が開始されている。11月中旬播種の幼穂長は2mm程度となっている。一部で雑草の発生が多く見られる。</li> <li>・農業試験場11月6日播種「しゅんれい」の播種3か月後(2月5日)の生育調査では、幼穂長3.2mm、節間長7.7mm、葉齢・葉色は平年並、茎数はやや多く、草丈は低く推移している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に排水溝を確認し、必要に応じて排水溝の手直しや追加措置を行うなどして滞水が見られる場合は速やかに排水を促す。</li> <li>・第一回穂肥の施用時期が早いと精麦率が低下するので時期を守って施用する。</li> <li>・雑草の発生が多い場合には、麦の生育や収穫に支障が生じる場合があるので、時期を失しないように茎葉処理剤による防除を行う。</li> <li>【降雪が続く場合】</li> <li>・雪解け後は排水溝を点検し、明きよと排水溝を連結する等ほ場の排水に努める。</li> <li>・積雪期間が長期にわたった場合は、雪解け後にできるだけ早く窒素肥料を追肥し、生育の回復に努める。</li> <li>・雪害は積雪が100日を超えると多く発生する。根雪が長引くと予想される場合には、融雪資材(育苗培土、堆肥等)の散布を行う。</li> </ul>	
果樹	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>(雪害対策)</li> <li>・引き続き雪害に注意する。</li> <li>・棚上に積もった雪は早めに払い落とす。</li> <li>(栽培管理)</li> <li>・作業遅れとならないよう、せん定作業を進める。</li> </ul>	
	かき	同上	
	ぶどう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年、ハウスの被覆が早い園では1月下旬～2月上旬にビニール被覆が開始されている(砂丘地研究センター二重被覆ハウス2月1日)。</li> <li>・本年は積雪が定期的であり、例年以上に雪害の発生が心配されるので、気象情報等を確認しながら被覆準備が行われる見込み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(雪害対策)</li> <li>・ハウスの被覆にあたっては気象情報を十分確認して実施する。</li> <li>・雪害に注意する。</li> </ul>
野菜	白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>【春ねぎ】</li> <li>・積雪による葉折れ等は徐々に回復し、新葉が展開しつつある。抽台状況は暖冬であった昨年、一昨年と比べ3週間遅い。</li> <li>【夏ねぎ】</li> <li>・生育は例年並～やや遅い。トンネル栽培では2月上旬から被覆の一時除去が行われている。</li> <li>【秋冬ねぎ】</li> <li>・雪害からの回復待ちをしている生産者もあるが、収穫は終盤を迎えている。</li> <li>・積雪がなくなってから出荷は順調に進んでいる。雪害規格であるが2L、L規格中心で肥大は良好。しかし、茎折れなどで加工用出荷となるものも増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春ネギの抽台は例年並みと見られるが、収穫が遅れないよう努める。抽台の恐れがある場合は前倒し収穫する。</li> <li>・積雪で収穫が遅れている秋冬ねぎは、気温の上昇とともに伸長も進むため、棒ねぎとならないよう早めに収穫する。</li> <li>・今後も積雪の恐れがあるため、葉折れ対策のロープなどを徹底する。</li> <li>・さび病、小菌核腐敗症の防除を徹底する。</li> </ul>
	ブロッコリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12～1月の雪害で花蕾品質が低下したものの出荷が続いており、秀率は60～70%となっている。1月末時点の出荷進捗率は計画比65%程度。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月中旬までは雪害を受けたものの出荷が続く見込み。</li> <li>・菌核病の防除を徹底する。</li> </ul>
	らっきょう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年末年始の積雪の影響で生育が停滞していたが、生育が再開し徐々に回復している。雪解け後に一部で白色疫病が発生している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白色疫病の防除を徹底する。</li> <li>・分球が少ないことが予想される。</li> </ul>
	促成トマト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大原地区の促成トマトは、早いものが4日目開花はじめて生育は概ね平年並。一部、地温が低い場所でカリウム欠乏、マグネシウム欠乏とみられる症状があるが、葉面散布の細かな実施により葉色が改善している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・灰色かび病の発生を抑えるため、防除を徹底するとともにハウスの換気、結実後の花弁除去を徹底する。</li> </ul>
	にんじん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積雪による品質への影響は少なかったが、葉折れにより収穫機での作業ができず出荷が停滞した。1月末時点での出荷実績は7.87万csで前年対比94%。収穫はほぼ終了。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共選出荷は終了し、個選出荷が若干残っている。</li> </ul>
いちご	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月に入り新葉の伸長が始まり地上部生育が旺盛になりつつある。第2花房果の収穫ステージの初盤～中盤となっている。第3花房以降も順調に出蕾、開花している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日射増加、気温上昇とともに水分消費量が多くなるため、遅れないようかん水を行う。</li> <li>・展葉速度が速くなるため、下葉かきが遅れなように管理する。</li> <li>・アブラムシ、ハダニが発生しやすくなるため防除を徹底する。</li> </ul>	
花き	シンテッポウユリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>【東部地区】</li> <li>・智頭町で2戸が育苗中。委託育苗をしている生産者は、1月上旬から播種し、順調に発芽、生育している。品種はオーガスタEX、優雅中生、白楼2型、雷山2号セレクトなど。ミヨシの品種も試作中で、早生・中生6系統を1月中旬、晩生6系統を2月上旬に播種し、育苗中。</li> <li>・八頭地区では年末～1月中旬にかけて播種され、順調に発芽している。</li> <li>・鳥取市内でも2戸が育苗中。白楼2型、オーガスタEX、雷山2号セレクトなど。発芽は順調。</li> <li>・東部地区ではチェーンポット育苗を導入している。</li> <li>【中部地区】</li> <li>・倉吉市で1戸が地床育苗を行っている。1月中旬から順次播種し、早生系統は順調に発芽し、子葉が伸びきった状態になっている。品種はオーガスタEX。順次中生、晩生を播種している。品種は優雅中生、優雅晩生。</li> <li>・大栄花き部は委託育苗を実施。チェーンポット育苗。品種はオーガスタEX。発芽は順調で、2月12日頃に補植作業が行われた。</li> <li>・抑制作型はほぼ収穫終了(大栄花き部)。令和2年度の出荷量は約19万本(前年比77%)、平均単価104円(同107%)だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子葉が伸びきったところでボルドーなどで葉枯れ病の防除を実施する。</li> <li>・気温の高低差が激しいので、換気管理等注意が必要。</li> </ul>
	ストック	<ul style="list-style-type: none"> <li>【東部地区】</li> <li>・八頭町で9月中下旬に播種し、彼岸出荷を想定していた作型は、11月中旬の気象条件(平均気温平年比+3℃、日照時間も長い)により生育が進み、1月下旬には開花が始まった。積雪で換気が十分できなかったことも影響していると思われる。</li> <li>・鳥取市でも生育が進み、彼岸出荷作型(9月中旬播種)は1月下旬～開花が始まり、開花盛期を迎えている。</li> <li>【中部地区】</li> <li>・倉吉管内は全体の8～9割が収穫終了。</li> <li>・大栄花き部会の出荷量は日量SD 1～2万本(単価45円)、SP 5千本(70～80円)。1月下旬以降、市場の動きが悪く単価が低迷している。緊急事態宣言の影響と思われる。</li> <li>・収穫状況はSDは8割以上、SPは9割以上終了している。</li> <li>【西部地区】</li> <li>・生育は概ね順調であり、昨年に比べ出荷ペースが速い。全体に前倒しとなっている。</li> <li>・JA西部ストック部会の出荷量は日量50～80ケースで、対前年比200%。</li> <li>・中山地区では彼岸出荷を想定していた作型は出荷終了したところもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西瓜の準備等で切り上げる時期となってくるが、可能な限り収穫するよう努める。</li> <li>・収穫は3月末で終了の見込み。</li> <li>・西部全体でも3月10日頃には出荷が終了する見込み。</li> <li>・残さず収穫してしまい、メロンの準備をするよう助言している。</li> </ul>
イタリアンライグラス等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イタリアンライグラス</li> <li>【東部地区】</li> <li>・生育順調。</li> <li>【大山地区】</li> <li>・草丈は15～20cm程度。</li> <li>【西部地区】</li> <li>・生育は平年並。標高が高い地区は積雪下で確認できず。</li> <li>○エンバク</li> <li>【鳥取・八頭地区】</li> <li>積雪による倒伏が見られるが、冬枯れは確認されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イタリアンライグラス</li> <li>・大山地区等標高が高い地区において、今後の根雪によっては、雪腐れによる減収が懸念される。</li> <li>○エンバク</li> <li>【鳥取・八頭地区】</li> <li>・春のほ場の状態によっては、飼料用トウモロコシの播種を優先し、収穫せずにすき込む。</li> </ul>	